粘着剤付メラミンシート / 粘着剤付抗ウイルス メラミンシート

メラタック / MELATACK+ 粘着剤付メラミンシート メラタックプラス / メラタック ウイルテクト

施工説明書

2020.09 改定

◎メラタックプラス、メラタックウイルテクトは防火認定を取得した商品です。
　メラタックとメラタックプラス、メラタックウイルテクトは法令に基づいて使い分けしてください。
◎メラタックとメラタックプラス、メラタックウイルテクトの施工方法は同じです。この説明書では以後「メラタック」と表記します。
◎施工前にこの施工説明書をよく読み、正しく施工してください。
◎同梱の取扱説明書は必ずお施主様にお渡しください。
◎施工前に、品番及び輸送時の破損・傷の確認をお願い致します。その後の責任は負いかねますので、必ず確認ください。
◎**防火材料としてメラタックプラス、メラタックウイルテクトを施工する場合は、**
　施工する下地の種類およびプライマーの塗布量に制限があります。
　詳細は、本紙2ページの「国土交通大臣認定番号」をご確認ください。
◎貼り合わせる下地の表面の汚れ（粉塵、油汚れ等）はしっかりと拭き取り、**必ずプライマー処理を行ってください。**
　ビス穴や不陸の有る場合は、パテ処理などで平滑にしてからプライマー処理を行ってください。
◎0.55mm と非常に薄く割れ易いため、運送や加工の際の取り扱いに十分注意してください。
◎**貼り合わせ後はしっかりと圧締してください。圧締が不十分の場合、剥がれや浮き、**
　クラック発生の原因となります。特に端部の圧締は十分に行ってください。
◎粘着が強力なため、貼り直しは困難です。最初の位置合わせに注意し、端部から順に貼り合わせてください。
◎冬季、10℃以下では粘着力が低下します。下地材やメラタックを暖めて施工してください。
◎環境の変化により伸縮があります。圧締が不十分の場合、突き付け貼り部において目隙や突き上げが発生する場合があります。
◎曲げ加工については二次曲面での曲げが可能です。熱をかけるなどしても、
　メラタックは伸ばすことができないため、絞り加工など三次曲面への施工はできません。
◎メラタックウイルテクトは表面のツヤが変化するほど摩耗すると抗ウイルス性能が低下することがあります。
◎同柄番号でも一般品とウイルテクトシリーズでは、色味・ツヤが違いますので、同一物件の同一面でのご使用は避けてください。

⚠ 安全についてのご注意

下記の注意事項は、ケガや事故を事前に防止するためのものですので、必ずお守りください。

注 意 事 項	想定される危険性
●運搬・作業時には滑り止め手袋を着用してください。 ●カット・加工した端部で手を切る可能性があるため、必ず端部をサンドペーパーで面取りをしてください。 ●下地処理に用いるプライマーには有機溶剤が含まれているものがあります。ご使用にあたっては、換気と火気の使用には十分ご注意ください。	怪我もしくは健康を害する恐れ

施工の手順

下地調整

1 材料確認 → 2 前処理 → 3 パテ処理 → 4 プライマー処理 → 5 カット・加工 → 6 貼り作業 → 7 仕上げ

AICA

商品特徴

●メラタックの施工には必ず下地にプライマーを塗布してください。

下地基材・例		密着性
改 修	メラミン化粧板	○
	ポリエステル化粧合板	○*
	塗装下地	△
不 適	塩化ビニル(フィルム、壁紙等)	×
	ポリエチレン	×
	ポリプロピレン	×
	シリコン樹脂	×
	フッ素樹脂	×

下地基材・例		密着性
新 規	合板	○
	パーティクルボード	○
	MDF	○
	せっこうボード	○
	けい酸カルシウム板	○
	亜鉛メッキ鋼板	○
	アルミニウム	○
	ステンレス	○
	アクリル板	○

○:貼り合わせ可能　　×:貼り合わせ不可
△:事前に確認試験を行うか、弊社までお問合せください
*表層の研磨が必要
※上記以外の下地につきましては最寄りの当社までお問合せください。
下地の状況に応じて適切に下地処理を行ってください。

■国土交通大臣認定番号

商品名	製品記号	下地		
		不燃材料※1	アルミニウム合金板※3	準不燃材料
メラタックプラス メラタックウイルテクト	GTF、GJF、GKF、GLF、 GY-、GYK	NM-4669※2	NM-4413	QM-0888

※1:アルミニウム合金板を除く　※2:従来の認定番号NM-4414は新認定番号NM-4669に包括されます
※3:アルミニウム合金板種類
規格:JIS H 4000,　JIS H 4100,　JIS H 4140　　厚さ:0.5～20.0mm　　質量:1.4～56.0kg/m²
合金番号:1070, 1060, 1050, 1100, 1200, 2017, 2024, 3003, 3004, 3105, 5005, 5050, 5052, 6061, 6N01, 6063, 7003, 7050, 7N01(溶解温度502℃以上)

専用プライマーはF☆☆☆☆です。

品 名	品 番	サイズ・容量	標準施工量	梱包入り数
専用プライマー(溶剤系)	RQ-900P	3kg／缶	80～120g／m²(原液)	2缶／ケース
専用プライマー(水系)	RA-910	4kg／缶	合板・MDF 50～60g/m² けい酸カルシウム板 80～90g/m² せっこうボード 80～90g/m² (水で3～4倍に希釈)	1缶／ケース

※塗布量は下地の種類、状態によって異ります。

加工・施工工具

① 下地処理　専用プライマー、専用シーラー、刷毛、パテ、グラインダー、サンドペーパー、マスキングテープ
② 切断加工　丸ノコ(チップソー、ダイヤモンドソー)、プラスチックカッター、カッター、はさみ、スチール定規
③ 貼り合わせ作業　プラスチックスキージー、金属ローラー、トリマー
④ 仕上げ　トリマー、サンドペーパー、ヤスリ、デコラカンナ
⑤ 清掃　アルコール、ウエス

施工前の確認

まずはメラタックの施工が可能かどうか確認してください。

1 使用場所

屋外での使用について

メラタックは屋外用途には使用できません。内装用途にお使いください。また、直射日光が強く当たる部位や、雨掛かりがある部位に使用されますと、変色や剥がれが発生する場合がございますので予めご了承ください。

水廻りなど、高湿となる部位への使用はご注意ください

メラタックは水分に対して十分な耐久性は持っていますが、下地基材の変質（サビ、膨張など）により仕上がり外観が悪くなる場合があります。また下地基材が湿気を帯びると剥がれや浮きの原因となります。**水廻りの使用**では耐水性のある基材をご使用ください。また、**目地や端部にシーリングするなど裏面に水が回らないように施工してください。**

出窓など、長期的に高温となる部位には使用しないでください

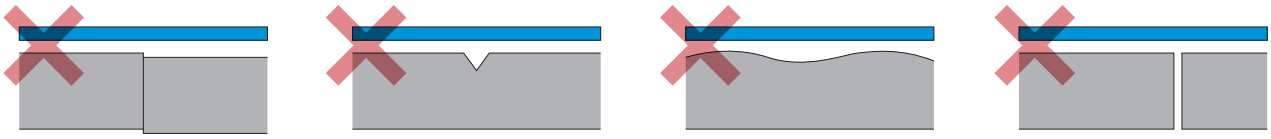
直射日光等で長期的に高温となる部位への施工は避けてください。浮きや剥がれが発生する場合があります。

2 下　地

メラタックは平滑で強度の有る下地に施工してください。

施工に適さない下地

①**不陸や凹凸、段差の有る下地**
メラタックは平滑な下地に施工してください。不陸などを調整せずに施工した場合浮きや剥れの原因となります。パテ処理などで平滑にし、必ずプライマー処理を行ってください。



②**PE（ポリエチレン）、PP（ポリプロピレン）、塩化ビニル、シリコン樹脂、フッ素樹脂 等には粘着剤が密着しませんので施工できません。**

③**下地表面の強度が弱くメラタックが下地と共にはがれてしまうもの**
壁紙（クロス）、壁面のEP 塗装や劣化した塗装面 等は必ず剥がしてから施工してください。

④**強度不足の下地**：強く抑えると凹むような下地の場合、十分にメラタックを圧締できないため、剥がれや浮きの原因となります。下地の強度を確保してください。

> ⚠ **注意が必要な下地**　※不確かな下地については、事前に確認試験を行うか、弊社までお問合せください。
> **曲面下地**：下地のひずみに注意してください。メラタックは引き伸ばすことができないため、曲面がひずんでいる場合、下地に沿って貼り合せることが難しく、浮きが発生したり、事前の割付どおりに施工できない場合があります。

3 環　境

作業環境の温度

施工適正温度範囲は15～35℃です。10℃以下になりますと粘着力が低下し密着不良による剥がれや浮きが発生することがあります。施工環境の温度が10℃以下の場合、噴射式温風暖房装置 等で環境温度を上げ、下地基材を暖めてください。

施工は塵や埃の立たない、明るい場所で行ってください

塵や埃がシートと基材間に入りますと膨れなどの外観不良の原因となります。事前に作業場所周辺の清掃を行ってください。また暗所での作業は気泡等の仕上がりミスを見逃す原因となりますので、補助照明を使用するなど十分な明るさを確保してください。

火気には十分ご注意ください

下地調整に使用するプライマーには可燃性引火物を使用しているものがあります。火気には十分ご注意ください。

十分な換気を行ってください

下地調整に使用するプライマーには有機溶剤を使用しているものがあります。換気は十分に行ってください。

4 製　品

品番及び輸送時の破損･傷の確認をお願いいたします。その後の責任は負いかねますので、必ず確認ください。

メラタックの色調

下地基材の色によっては、仕上がり表面色が影響を受けることがありますので、事前にご確認ください。
同柄番号でも、一般品とウイルテクトシリーズでは、色味･艶が違いますので、同一物件の同一面でのご使用は避けてください。

メラタックのロット（突付け貼りの際の色調差）

メラタックは製造工程で厳重な品質管理を行っていますが、ロットにより色調や艶などに差異が生じることがあります。
同一現場で複数ロットを使用する場合には事前にご確認ください。差異がある場合は同一面での突付け施工を避け、
使用面を変えるなどして割り付けてください。

施　工

1 下地調整

メラタックの仕上がりは下地の凹凸の影響を受けるため、下地調整が重要となります。
下地を平滑に仕上げることが、貼り上がりを美しく仕上げ、浮きや剥れを防ぐポイントとなります。
下地調整の方法は下地基材の材質･状態によって異なります。下地基材に応じた下地処理を行ってください。

下地調整の基本的な流れ

① 前 処 理 → ② パテ処理 → ③ プライマー処理

①前処理

●貼り合わせる下地表面の汚れ（粉塵、油汚れ等）は必ずしっかりと拭取ってください。

②パテ処理

●基材のへこみ部分、継ぎ目部分、ビス頭はパテ処理を行い平滑に仕上げてください。
●使用するパテは基材との密着性に優れ、肉ヤセが少ないものを使用してください。
●パテを使用する場合は、できるだけ基材の色調に近い物を使用してください。
　柄によっては下地の色が貼り上がり外観に影響する場合があります。

③プライマー処理

●**メラタックの施工には必ず下地にプライマー塗布してください。**
●標準塗布量　RQ-900P(溶剤系) 80～120g/m² (原液)
　　RA-910(水系) 50～90g/m² (水で3～4倍に希釈)
●プライマーは下地の全面に塗り、ムラが出ないように均一に塗布してください。
●浸み込みのある下地に繰り返し塗布すると不燃認定の条件を外れる場合があります。
　防火の内装制限を受ける部位には、標準塗布量を守って塗布してください。
●メラタックの貼り付けはプライマー乾燥後行ってください。特に浸み込みのある下地の場合、
　十分に乾燥させてください。乾燥が不十分な場合、浮きやフクレが発生する恐れがございます。

下地調整方法 粘着強度を上げるため必ずプライマーを塗布してください。

①新規下地　プライマーを塗布して施工してください。

	〈木材〉ラワンベニヤ シナベニヤ	せっこうボード けい酸カルシウム板	亜鉛メッキ鋼板 焼付塗装鋼板	アルミニウム ステンレス
前処理	釘頭処理		サビの確認	
パテ処理	粉体パテ		ポリパテ	
プライマー処理	RQ-900P（溶剤系）（原液） RA-910（水系）（水で3～4倍に希釈）			
表面清掃	アルコール			

②既存下地（増し貼り改修）

粘着強度を上げるため必ずプライマーを塗布してください。特に突き付け部位や端部は重要です。

●メラミン化粧板:メラミン化粧板の表面の汚れや油脂などはアルコールや洗剤などで完全に除去し、プライマーを塗布してください。エンボスが深いメラミン化粧板の場合は、密着力が不十分になるため浮きの原因となります。その際は下地表面を研磨し、より平滑な面へ施工してください。

●ポリエステル化粧合板（ポリ板）：ポリ板の表面をサンドペーパーなどで研磨した後、しっかりと拭取り、プライマーを塗布してから貼り合わせてください。

●塗装面：表面をサンドペーパーなどで研磨した後、しっかりと拭取り、プライマーを塗布してから貼り合わせてください。劣化した塗装面、凹凸の有る塗装面、下地との密着悪い塗装面には施工できません。

※施工の可否が不確かな下地については、事前に確認試験を行うか、弊社までお問合せください。

2 加　工（カット）

カッターナイフを使用する場合

1 採寸

貼り合せる部分を正確に採寸し、
メラタックのカットサイズを決定します。
その後カット部分の保護フィルムを剥がしてください。

2 罫書き

ガイドに沿って、プラスチックカッターでメラタックの表面に罫書きを数回入れてください。
プラスチックカッターのみでのカットは困難ですので、表面のみに罫書きを入れてください。

3 切断

罫書きに沿ってカッターナイフで数回切り込み、カットをしてください。力を加え過ぎるとバリが発生する恐れがありますので、ご注意ください。
また最裏面の離型紙までカットするために、数回に渡ってカットを行い、切り離してしてください。

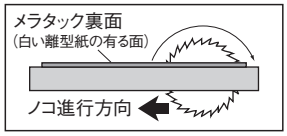
※カットしにくくなった場合は、カッターの刃をこまめに折って新しい刃を出してください。
※作業時は手袋を着用し、怪我をしないようにご注意ください。

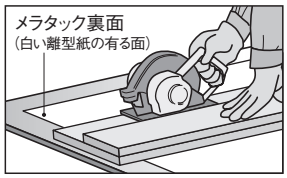
4 ペーパー掛け/切断面処理

メラタックの切断面にバリや欠けが有るとクラックのきっかけとなります。
サンドペーパーなどで必ず平滑にしてください。

丸ノコを使用する場合

カットは硬質断熱材などの上に置き、当木を用いて、
必ず刃物を表面から入れ、裏面から出るようにしてください。
（表面には保護フィルム、裏面には白い離型紙が貼ってあります）

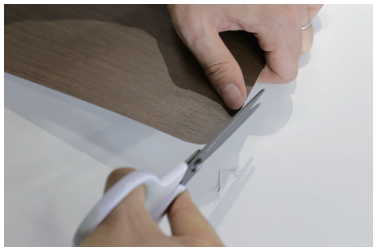




Rのある角のカット

R のある角はハサミでも加工が可能です。
カット後はサンドペーパーなどで必ず面取りしてください。

※ハサミの刃の状態が悪い場合は、バリが出る恐れがあります。
事前に試し切りでご確認ください。
※内Rのハサミによるカットはバリが出る恐れがあるためできません。
また、長い直線のハサミによるカットはお奨めしません。



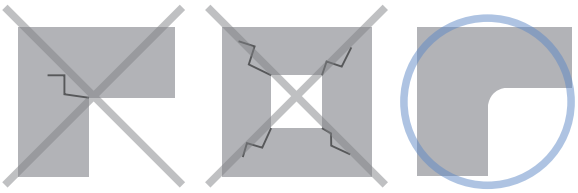
入隅コーナー、カットなどのご注意

半径6mm以上のR加工

切り欠きやくり抜きのコーナーには必ず6mmR(Φ12mm)以上の丸みを付けて下さい。ピン角にした場合、クラック発生の原因となります。

切断面

メラタックの加工面にバリや欠けが有るとクラックのきっかけとなります。サンドペーパーなどで平滑にしてください。また、端部にくる面の角も怪我などの防止のため、サンドペーパーなどで平滑にしてください。



3 貼り付け

水平面

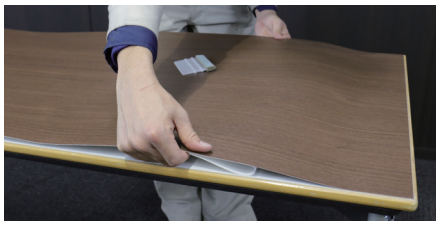
1 位置決め

離型紙の端部を5cm程度剥がし、折り目をつけた後、位置決めを行い、ずれないように指で上から押して仮留めしてください。その後仮留めした部分を中央から左右へ、スキージーで圧締してください。

2 貼り合わせ

離型紙を20cm程度ずつ剥がしながら、スキージーで端部から順に貼り合わせてください。この際、皺が寄らないように注意してください。
また離型紙を大きく剥がし過ぎると、順に貼り合わせが困難になりますので、一度圧締したところと半分程度重なるようにスキージーをずらしながら貼り合わせてください。

【重要】端部から順に空気を抜きながら貼り合わせてください。



3 仕上げの圧締【重要】

金属ローラーやスキージーを用いて、全体をもう一度強く圧締してください。特に端部は充分に行ってください。端部をサンドペーパーなどで面取りしてください。

【重要】全体を強く圧締してください。圧締が不足すると浮きや隙の原因となります。

※粘着が強力なため貼り直しが困難です。皺や気泡が入らないように端部から徐々に貼り付けてください。
※メラタックに割れや折れた状態で貼り合わせた場合、クラック発生の原因となりますので、十分にご注意ください。

垂直面（壁面）

垂直面への施工は、910mm×910mmまででご使用ください。
（910㎜以上では施工が難しく、お奨めいたしません）

1 位置決め

離型紙の端部を5cm程度剥がし、折り目をつけた後、位置決めを行い、ずれないように指で上から押して仮留めしてください。
その後仮留めした部分を中央から左右へ、スキージーで圧締してください。
垂直面の場合は、位置決めを高さ方向で合わせてください。

2 貼り合わせ

離型紙を20cm程度ずつ剥がしながら、スキージーで端部から順に貼り合わせてください。この際、皺が寄らないように注意してください。また離型紙を大きく剥がし過ぎると、順に貼り合わせが困難になりますので、一度圧締したところと半分程度重なるようにスキージーをずらしながら貼り合わせてください。

3 仕上げの圧締【重要】

金属ローラーやスキージーを用いて、全体をもう一度強く圧締してください。特に端部は十分に行ってください。

※壁紙（クロス）面への施工
壁紙表面への直接施工は密着力が不足することと、壁紙自体が剥れやすい為施工できません。必ず施工する部分の壁紙を剥がした後、プライマーを均一に塗布してください。プライマー乾燥後、メラタックを施工してください。

※突付け貼りの注意
・メラタックは環境の変化により伸縮があり、突付け貼りの場合目隙が発生する場合があります。
・突き付け部位はプライマー処理を行い、特にしっかりと圧締してください。
・目隙が発生した場合は、コーク剤等で充填してください。

保管時の注意

ご注意

●保管の際は、直射日光や雨の当たる場所を避け、風通しの良い屋内に保管してください。
●地面への直置きは避け、平らな場所でパレットなどの上に平積みしてください。
また重ね積みは製品に跡がつく恐れがありますので、おやめください。
●立て掛けての保管は、反りの原因になりますので、絶対におやめください。

カタログ、サンプル帳、現物サンプルのご請求はホームページにてお受けしております。

http://www.aica.co.jp/ アイカ工業

業務用

●アイカカタログセンター
TEL〈052〉409-1471

●商品のお問い合わせはアイカ問合せセンターまでお願いいたします。
〈0120〉525-100 TEL〈052〉409-8313

※問合せセンター・カタログセンターを含む全営業店所の営業日は、月～金（除く：土日祝休）です。ホームページからのカタログ・サンプル当日出荷の受付締め時間は14：00です。
※フリーダイヤルは、携帯電話・PHS・一部のIP電話等からはご利用になれない場合がございます。

P027-07
20.09